

東地域まちづくり協議会だより 第14号

東地域まちづくり協議会 令和2年度の総会中止

東地域まちづくり協議会 会長 大嶋 充

6月2日に予定されていましたがまちづくり協議会の総会は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催を断念いたしました。

一堂に会する「総会」に替わる措置として、総会のために配布予定の資料をお届けすることで、開催に替えさせていただきました。

本号では、総会資料の主な内容について、事業計画を中心にお知らせします。

今年で第4回目を迎える恒例の「東地域夏季ふれあいラジオ体操の実施とひみまつり会場の清掃活動」は、今年度は実施が無理な状況であります。この東地域におけるラジオ体操については、本協議会だより第10号でもお知らせしましたが、5回目をメドに、例えば3回以上参加して下さった方々には、粗品を贈呈できればと考えております。従いまして、これまで協議会から発行した3回目までの「参加証」は、大切にお持ちください。

なお、このラジオ体操につきましては、昨年7月に「NHK夏期巡回ラジオ体操」を本会場で実施していただくよう、氷見市に下記の団体連盟による「要望書」を提出いたしました。

【要望団体（順不同）】

- ・東地域自治振興委員協議会（13地区自治振興委員）
- ・東地域安全なまちづくり協議会
- ・東地区社会福祉協議会
- ・東地区交通安全協会
- ・東地区老人会
- ・リトルひがし



その席上、2年後の2022年（令和4年）の氷見市制施行70周年記念事業として招致する案が示されました。現在のところ、このラジオ体操は容易な状況ではありませんが、互いに目的と希望を共有し、コロナの問題が解決し実現できるよう根気よく待ちましょう。（今年度は中止です。）

また、一人暮らしの高齢者宅などへの火災報知器の設置を実現するため、8月に予定されている「おらっちゃ創生支援事業」で補助金を申請する予定です。

そして、10月18日(日)には、昨年度に引き続き「東地域さわやかクリンサンデー」の実施を計画しております。これは、家庭・学校、地域のために、自分は何ができるか、という視点で展開しています。DNA【(じぶんで (D) できることを)、(みんなでな (N) かよく)、(あ (A) そびごころをもって) 挑戦する】、という考え



に基づく活動です。「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる活動です。

このような活動が定着していくことにより、共助の輪が広がるのではないのでしょうか。共助とは、「あなた (You)」と「わたし (I)」が支え合う友愛社会のことです。本活動は、新聞にも取り上げられました。今後とも粘り強く続けていきたいと思います。

お知らせ

結びに、今年度も地域ぐるみで「あいさつ運動」を進めていきたいと思ひます。

あいさつは、まちづくりのための必要不可欠な条件です。①あかるく、②いつでも、③さきに、④づけよう、を合い言葉に今年度も東地域の皆様方のご支援を心からお願い申し上げます。

挨拶は、三密にはならず、親密になる魔法の言葉です。

日本中が今、コロナの問題で悩まされております。ここで、ちょっといい話をお知らせしたいと思います。5月の初旬、コロナウイルスに負けないようにと、ある地区の有志の方から地域の子どもたちに、手作りのマスクが届けられました。早速、地区の児童会代表の方を通じて地区の子どもたちに配られました。

このように、人を思いやり、地域のためにという考えや行動は尊く、まさしくまちづくりの基本であるということを再認識しました。本紙面をもって重ねてお礼申し上げます。(※ 本便りは、小・中学校へも届けています。そこで、今号から、漢字にルビをつけさせていただきました。)